

# 指でなぞる音読アプリ

熊本高専の研究チームの視覚障害者向け開発

指でなぞった文字だけを読み上げるスマートフォンやタブレット端末のアプリを、熊本高専人間情報システム工学科の清田公保教授(56)の研究チームが開発した。病気や事故で後天的に失明した人の学習やテレワークに役立つようと、2021年度中の商品化を目指している。

アプリの名称は、指なぞり音読システム「Touch Tail」

ker(タッチトーカー)」。視覚障害者が画面に表示された文章を読む場合は、音声読み上げソフトを使うのが一般的だが、必要な部分だけを読むことができず、時間がかかるという欠点がある。

このアプリを使うと、指で飛ばし飛ばしなぞれば、斜め読みも可能。長押しすれば先に続く文章も自動的に読み上げられる。

厚生労働省が2016年に実施した調査によると、視覚障害者の点字使用率は1割未満という。特に後天的に失明した人は習得が難しいといわれている。アプリの活用が広がれば、盲学校での授業や資格取得に向けた学習の支援が期待できる。

さらに、清田教授は「パソコンやキーボードなどの機器は不要。アプリを入れた端末さえあれば作業できるの



視覚障害者向けの指なぞり音読システムを導入したタブレット端末を持つ熊本高専の清田公保教授＝合志市

で、増えているテレワークにも活用できる」と話している。

特許は18年に取得済み。PDFファイルや縦書きの文書も読み取れるが、今後も音声ガイダンスの設定など改良を重ねる予定で、東京のIT企業と共同で商品化を検討している。価格は未定。商品

化に向けたモニターを携係☎096(242)募集している。熊本高専総務課研究・社会連 6187。  
(渡員知萌絵)